

喜田祐三・油彩画展出品作品

no	タイトル	サイズ	説明
1	真鶴漁港	F50	1987年写実画壇展(上野の森美術館)出品作品
2	屋台の賑わい(シンガポール)	S20	シンガポールの熱気と匂いと色彩を描く
3	首里の石畳	F20	どこからか「蛇三線」の音が聞こえてくる首里の風情
4	午後的那覇港	F20	宿泊したホテルすぐ横が港、時間がゆっくり流れる
5	グリフォードピアの船溜り	F20	シンガポール200年以上前の船着場、木製の船ばかり
6	西豪好日(フリーマントル)	F20	西豪の古い海賊の町、シーフードで午後のひと時を楽しむ
7	小樽昔日	F20	北の国の漁港、昔日の小樽を偲んで
8	寝台に横たわる裸婦	F20	「小出楢重」風に描いてみた、デッサン会の作品を油彩に
9	悩み多き頃(裸婦)	変20	年頃の彼女の表情から垣間見える人知れぬ悩み
10	ペラナカンの古アパート(マラッカ)	F10	中国人とマレー人の男女から創生された独自の文化・料理
11	フリーマントルの居酒屋	F10	洋の東西を問わず「居酒屋」は喧騒に満ちている
12	東京下町夜景(浅草三丁目)	F10	深夜の東京下町を不思議なノスタルジーが覆い尽くす
13	はしけの着く港(チャンギヴェルジ)	F10	シンガポールの昔の漁港は今は観光用はしけの船着場
14	大漁の後(房総外川漁港)	F10	戻ってきた漁船が身体を休めている。波の音と子供の声
15	小樽倉庫の裏通り	F10	ショッピング街の表通りから一筋入ると寂寥感ある倉庫街
16	ニコライ堂を見上げ	F8	友人とニコライ堂を描きに行った。昼下がりの雷雨で退散
17	ドナウの旅人(パッサウ)	F8	ドナウ川沿いの「パッサウ」はパイプオルガン演奏で有名
18	六歳の欣之介像	M8	愛する「欣之介」を描く
19	横浜たそがれ(横浜運河)	F6	昔日の横浜運河沿いの夕暮れ時
20	横浜物語(赤レンガ倉庫)	F6	昔日の横浜倉庫街を対岸から描く
21	河畔のホテル(ランツフト)	F6	ランツフトでは、いつもイン川沿いのこのホテルに泊まった
22	レーゲンスブルグの船着場	F6	ドイツ・バイエルン州の昔の州都、ドナウ沿いの町
23	HIMAWARI(ひまわり)	F6	隣のおじさんの庭からいただいた「ひまわり」を描く
24	ビールの看板のある風景	F6	シンガポール・リバーバレー通りは私の好きな通り
25	スワン河の水上市ストラン(パース)	F6	ワイナリーが立ち並ぶスワン河沿いの水上市ストラン
26	赤い裁判所のある町(バンガロール)	F6	6年仕事をしたインド、匂いと空に舞うカラスが懐かしい
27	台風接近(芝浦埠頭)	F6	レインボーブリッジができる前の芝浦埠頭が懐かしい
28	リンゴと椅子たち	F6	リンゴの赤色と椅子の動きをリズムカルな音楽に
29	リンゴのある卓上	F4	「セザンヌ」の構図を試みたが平凡なものになった
30	三十五歳の自画像	F4	絵を始めたころの自画像、似てないと家内に言われた
31	七十六歳の自画像	F4	今回の個展を決めてから、今の自画像を描いた
32	ロシア正教会(ニコライ堂)	F3	正面の聖堂入り口は強く印象に残った、アトリエで描く
33	労力の声が聞こえる倉庫街(1995)	F3	シンガポールへ赴任当時、古い倉庫街がまだ残っていた
34	どくだみの花	SM	我が家の庭の片隅に咲いた「どくだみの花」
35	三色すみれ	SM	厳しい冬にも花を咲かすパンジーが好きです
36	秋のあけび(あけび)	SM	友人と行った長野県須坂の「あけび温泉」で頂戴したもの
37	芝浦運河 (1)	SM	JR田町駅から歩いて10分、こんな運河が東京にある
38	芝浦運河 (2)	SM	芝浦埠頭に近い運河だが、モノレールとの対比が面白い
39	天日干しの味覚	SM	魚は天日干しにすると、旨味が増す、描いた後は喰らう
40	橋のある風景(ポルドー)	F8	40年以上前のスケッチブックから油絵に
41	ニコライ堂の社務所	SM	ニコライ堂の聖堂の正面に在る小さな社務所に味わいあり
42	房総御宿あたり	SM	御宿あたりの漁港を歩くとこんないい風景に出会う